

ネギ前作の緑肥作物ハゼリソウにおけるハモグリバエ類

の土着寄生蜂の発生状況

大井田寛¹・河名利幸¹・内野憲² (¹千葉農林総研・²千葉農大)

千葉県の減農薬栽培ネギ圃場では、これまでの調査により、重要害虫の1つであるネギハモグリバエに対して、ネギハモグリヒメコバチ *Diglyphus crassinervis*、カトウヒメコバチ *Pnigalio katonis* およびハモグリコガネコバチ *Halticoptera circulus* の3種を優占種とする多様な土着寄生蜂類が発生することが明らかとなっている。

一方、千葉県内のネギ栽培圃場では、連作障害の発生を回避する目的で、定植前の緑肥作物として、ハゼリソウ *Phacelia tanacetifolia* が利用されている。ハゼリソウは花蜜および花粉を多く生産するため、海外では天敵の餌資源として注目されており、実際に麦畑や果樹園に植えると、圃場におけるヒラタアブ類や寄生蜂類の密度が高まり、害虫密度が抑制されることが報告されている。

ハゼリソウではネギを加害しないナモグリバエが発生する。ナモグリバエの土着寄生蜂相については他の寄主植物を対象とした報告がいくつかあるが、ハゼリソウではない。ハゼリソウおよびネギでのハモグリバエ類土着寄生蜂相に共通部分がある場合、ハゼリソウの一部を緑肥としてすき込まずに土着寄生蜂の発生源として温存することにより、ネギにおけるネギハモグリバエ被害を軽減できる可能性がある。そこで、2009年3～4月、2010年3～5月に、市川市内のネギ栽培圃場でネギ定植前に植栽されたハゼリソウからナモグリバエ加害葉を採集し、室内でナモグリバエとその土着寄生蜂を羽化させて発生状況を調査した。また、開花期には花も採集調査した。

ハゼリソウのナモグリバエ加害葉からはイサエアヒメコバチが最も多く、次いで、ニホンハモグリコマユバチ、ハモグリコガネコバチ等、10種以上のハモグリバエ類の土着寄生蜂が羽化し、このうち、ネギとの共通種はハモグリコガネコバチ等の6種類であった。調査期間中の寄生率は約10～90%の範囲で変動し、多発時には10葉あたり100頭以上回収された。また、5～6月に開花するハゼリソウの花からは、これら土着寄生蜂類のうち7種が採集されたことから、蜜や花粉を栄養源として用いている可能性が示唆された。

なお、本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「農業に有用な生物多様性の指標および評価手法の開発」において実施したものである。



ハゼリソウの花



ハモグリコガネコバチ